

子どもたちの
笑顔
ひろがる



子育てしやすい環境を
さらに充実させます

人口減少時代を迎えている中、岡垣町では、特に人口維持の鍵となる子育て支援に重点的に取り組んでいます。

母子の健康づくりでは、安心して出産・育児ができるよう、妊産婦と乳幼児の健診や相談体制を充実させています。また、病気にかかることの多いお子さんが安心して医療を受けられるよう、入院時の自己負担は中学生まで無料とし、小・中学生の通院費の一部助成など、子どもの医療費負担の支援も行っています。さらに、待機児童の解消と保育サービスの充実のため、民間保育所の定員拡大への支援や届出保育所保育料の補助などを行っています。

岡垣町には、子どもたちや子育て世代の保護者を応援する施設「こども未来館」があります。この施設は、0歳から18歳までの子どもが利用でき、さまざまなイベントが催されています。また、保護者向けの教室や子育て相談も行われており、お父さんお母さんの交流の場としても親しまれています。また、保護者が急な仕事や病気のとさなどに、子どもを一時的に預かる一時保育や地域の公民館などを利用した出張児童館も積極的に実施し、子育て世帯を支援しています。

そのほか、仕事と家庭の両立を支援する取り組みとして、町内に5校ある全ての小学校に学童保育所を設置し、保護者が仕事などで昼間家庭にいない全学年の児童を対象に、適切な遊びや生活の場を提供しています。

こども未来館



施設には高さ6mのクライミングウォールや天体観望室も備わっています。毎年実施している「こどもまつり」は町内外から多くの子どもたちが訪れる人気のイベントです。



海・山・川とおいしい空気。

親切な方もたくさんいます

甘水 博史さん
こず絵さん
大和くん
のどかちゃん

この場所での暮らしが魅力的だから



インタビュー動画はこちら



子どもの頃、毎日当たり前に見ていた、通学路から見える岡垣の景色。ご夫婦ともに岡垣町で過ごしたお二人は、結婚し4人家族になって、改めて町の良さを実感したといいます。

お二人が結婚し、東高倉地区に家を建てて10年。早くから造成が行われたこの地区は、長く住んでいるご近所さんが多く、博史さんは、

「若いころは近所つきあいに戸惑いがありました。子どもたちが生まれて交流が広がると、周りのお年寄りの皆さんからも子どもたちを温かく見守っていただき、岡垣の人の温かさを感じました」と語ります。

9歳と2歳のお子さんを育てる甘水家。夫婦共働きのお二人にとって、岡垣町は子育てしやすく、働きやすい町なので満足しているといいます。

「夫も私も仕事を持っていて、子育てに不安がありました。岡垣町は保育園・幼稚園に延長保育や一時預かりなどがあり、子育て家族に優しいまちです。『こども未来館』は子育てのさまざまな相談にも応じてくれますし、スポーツクライミングもできるので長男の良い遊び場になっています。また、子どもの発熱など緊急の病気にも対応してもらえる医療環境があるので安心です」

とこず絵さん。

「これから子どもたちが大きくなっていきますが、海や山、川などの豊かな自然の中で、のびのびと育てて欲しいと思います。また、岡垣は都会でもなく、田舎でもない、ちょうど良いまち。便利さだけが豊かさに直結しているわけじゃないと思います。そのバランスが生活の豊かさにつながるものだと思います」

と、自分が育った環境を思い出しながら話してくれました。

波津海岸

子育てをしながら、自分自身も楽しめる。そんな環境が整っています。



ちょうどいい暮らしができるまち

「日本の魅力を再発見する」をコンセプトにした月刊誌「Discover Japan」に、自然を感じながら暮らせる、都会過ぎず田舎過ぎない「ちょうどいい暮らしができる街」と紹介された岡垣町。福岡市や北九州市などの都市部に比べ土地が非常に安価なことや、どちらにも通勤・通学しやすいことも魅力のひとつです。